

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 2 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3495000022		
法人名	社会福祉法人 誠心福社会		
事業所名	誠心園グループホーム		
所在地	広島県江田島市江田島町宮の原3丁目18番66号		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3495000022-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年2月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

みかん畑に囲まれ、ホームの庭では季節を感じることでできるさくらんぼ、柿、イチジクが植えてありそれらを利用者様と一緒に収穫し、季節を感じて頂くことを大切にしています。建物は自然のエネルギーを利用するジオパワーシステムを導入したエコ住宅を創りました。別棟にある多目的棟では、運営推進会議を行ったり、イベントを行ったり、利用者様、地域の方との交流の場としています。外出行事では全員参加に力を入れ、家族の方にも参加していただき少しでも我が家のようなあたり前の生活ができるように理念に沿った支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この1年間の特徴的な取組みとして、第一に、「日常的な外出支援」の深化がある。即ち、外出支援における「ケとハレ」の試みである。職員の提案により、今回初めてフェリーからの海上花火見物に挑戦した。花火が発する、光・音・硝煙の匂いを肌で感じ、アイスクリームを頬張る。普段は行けないような所へ外出し、「ハレ＝非日常」を楽しみ、「重度化させないために利用者様に社会資源の活用」を実践できた。第二に、「職員を育てる取組み」の深化がある。即ち、管理者の直接的な指導より、外部からの刺激を主体的に咀嚼してほしいという事業所の方針がある。市から案内のある多職種連携研修・認知症サポーター養成講座・ケアマネ研修・地域ケア会議等の外部研修への参加を積極的に進めた結果、職員は全員オレンジ・リングを取得し、管理者もオレンジ・アドバイザーとなることができ、今後「事業所の力を活かした地域貢献」に繋げていきたい意向がある。

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	我が家のような普通であり前の生活を私たちが心をこめて支援します。この理念を基に、家族の方には入居説明時に、職員には理念に添っているか、その場その場で理念を振り返ってもらっている。	開設時に職員が作った理念を、事務所に掲示すると共に、ケアを実践する上での立ち返るべき原点として位置付けている。又、理念に沿った事業所の年間事業計画を策定、運営推進会議で報告し、併せて各職員の業務目標管理も導入して、半期毎の個人面談で達成度を検証している。更に職員アンケートを踏まえ、新体制に即した、より具体的な理念の改定も検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域の方たちとは、挨拶を交わし、利用者様との散歩時には会話が出きる関係作りができています。また、事業所の行事には保育園児、近隣の方と一緒に楽しみ交流している。	日頃から散歩・買い物をする中で地域住民と挨拶を交わしたり、運営推進会議に参加の民生委員からの情報でコミュニティ祭り・公民館での映画鑑賞等の地域行事にも参加している。又、地域婦人会・米軍サンタ・演芸ボランティアの受け入れや近隣保育園の行事への参加・保育園児の来訪等の相互交流・世代間交流も為されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で、認知症の方への取り組み、事例発表を行ない説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度の実施で、介護福祉課、民生委員、社協、利用者の家族の方が参加されている。会議では意見交換を行い、また助言を頂きサービス向上に活かしている。議事録、消防署の方の防災についての指導書などは参加されない家族には送らせていただき報告を行っている。	会議は定期的開催され、利用者家族・市介護課職員・地域包括支援センター職員・民生委員や、時に消防署職員が参加している。事業所の現況報告や行事報告が参加者との意見交換と共に行われ、参加者からの提案で不参加者家族へ議事録等を送付したり、誤薬事案への対策として二重点検から三重点検に徹底化した経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業運営をする上で、市の担当者と連絡を取り、必要に応じて指導をして頂き、支援をする上で必要な研修、講演会への誘いを頂き、積極的に参加している。	運営推進会議には市介護課職員・地域包括支援センター職員が参加し、情報の共有化が図られている。又、市担当課から案内のある多職種連携研修・認知症サポーター養成講座・ケアマネ研修・地域ケア会議等への参加や地域包括支援センター主催の百歳体操事業への協力や市の実務者研修の受け入れ等、市町との連携強化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束委員会を設置し、年2回の全体研修を行なっている。見守りを徹底し拘束をしない支援に取り組んでいるがベッドからの転落のリスクが高い方にはセンサーマットを使用している。	法人全体で委員会・マニュアルを整備し、職員は内・外部研修に参加して「身体拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねており、拘束例はない。玄関は不審者の侵入防止のため基本的に施錠している。利用者によっては夜間ベッドの足元に床センサー・マットを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人全体で委員会を設置している。事業所ではマニュアルを作成している。虐待が無い、間違った言動が無い、職員間で注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人全体での研修を開催している。外部研修、講演会に参加し学んだことを実践に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には、利用者様 家族様に見学していただいています。在宅時のケアマネージャーと連携をとり家族の不安や疑問の解消に努めています。また退所時には同様に行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議 面会時等で出た意見要望は報告し検討している。その検討結果は個人に報告、推進会議で報告している。	利用者の要望等は日頃の職員との会話から把握し、家族とは介護計画更新時、電話連絡時や面会時等に職員や管理者が積極的に聴くようにしており、送りノートの記載して職員間で共有したり、「家族受付書」に記載して、必要な措置を講ずるようにしている。活動性を上げるため家事の手伝い・計算ドリル導入等の要望の例がある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議、申し送り時に意見を聞き話し合う機会を設け、意見交換を行い、随時その機会を設け、反映の為に努力をしている。</p>	<p>必要時の事業所会議、3委員会会議、担当者会議、毎日の申し送りや半期毎又は随時の個別面談を通して、意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員の提案により、感染症対策として掃除や消毒方法の統一や利用者毎の介助方法の工夫例があり、議事録等で共有する。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人独自の評価があり、目標や評価を見直す機会がある。個人面接を行ったり、資格取得に向けた支援を行なっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の経験年数や力量に合わせ、外部研修、内部研修への参加を実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域で開催されている研修や勉強会等に参加して、同業者とのネットワークを広げ、サービスの質の向上に繋げている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>家族、ケアマネ等からの情報を参考にし、パーソン・センタード・ケアに添って支援を行なえるように傾聴に努め、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に至るまでの家族の思いや家庭の事情等を伺いながら、意見や要望をサービスの提供に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を整備し、必要な他サービスも検討したり、法人の中にショートステイ、特養があることを説明し、連携していることを伝えたり、家族にとって最適な方法か否かを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の関わり時間を少しでも取り、一緒にお茶をしたり食事をしたり、テレビを観たり、軽作業を一緒に取り組むことで、支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の面会時には利用者の思いを家族に伝えたり、家族の思いを利用者に伝えたりして、家族と共に利用者を支えていることを、理解して頂けるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚、家族が面会に来られたり、以前通院していた病院受診、行きつけの美容院に行っていたり関係が途切れないようにしている、盆、クリスマス、正月には帰宅できるよう声かけを行なっている。	「地域との絆」「気軽に訪問できる事業所作り」を大事にしており、美容院・墓参り・普通院していた病院等への外出を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。事業所から保育園の発表会見学に行った際、利用者がその幼少期を知っていた知人と再会できた例がある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	身体状態や性格を考慮し席の位置や居室を工夫し円満な関係が保てるように配慮している。仲の良い人たちと一緒にの外出や、お茶の席を設けたり談話時間を増やすように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も家族の相談にのったり、お見舞いや継続的な関わりを持つように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の関わりの中から希望や要望を発見したり家族の方からの希望を聞かせていただき実行できるよう努めている。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解する様努めており、それを申し送りノート等に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前のサマリーやケアプラン等、生活歴を参考にして本人、家族の思いを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日誌に排泄、入浴、睡眠、食事量を記入し、心身状態を把握している。申し送り及び申し送りノートを活用している。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の意見を尊重し状態に応じて担当者会議を行い介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行ない、計画に反映させている。</p>	<p>計画作成担当者が基本情報を集約し、原案を作成している。担当者会議には、その家族の約2割が参加して職員と介護計画を策定している。3か月毎にモニタリングを行い、基本1年毎に計画の見直しを行っている。事業所前の通路散歩が日課の利用者が、実は花の世話好きだとわかり、併設特養の生け花教室に参加の立案例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>職員各自担当を持ち、毎日個別の記録を行ない、状態の変化等を全職員が把握できるようにし、情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人内の趣味活動に参加したり本人や家族の状況等にあわせ柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防署職員、民生委員立会いの下、消防訓練を行なっている。地域内の保育園児を招いての行事、保育所の行事の参加を行なっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、家族からの要望を入居時間聞き、かかりつけ医の受診支援を行なっている。1週間に1度往診があり医師の診察を受けている。2週間に1度歯科医の往診を受けている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。1週間毎に協力医から、又2週間毎に協力歯科医の往診があり、専門医の受診は家族又は事業所による。事業所に2名の看護職員の配置や併設特別養護老人ホームの看護職員、医療連携による訪問看護師の来訪もあり、適切な医療が受けられる体制にある。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の体調の変化時や異常発生時には直ちに事務所内の看護師に相談することができる。必要に応じて特養の看護師と連携を取り、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い状況報告等行なっている、また入院中も様子を見に行く。病院関係者と連絡を取り合い退院に向けての話し合いを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化向け本人、家族と入居時話し合いを行なっている。終末期のあり方について話し合う。特養の入居申し込みについての説明を行ない連携していることを説明している。	利用開始時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」にて基本的な方針を説明し、了承を得ている。過去に看取り経験もあり、看取りの研修会やマニュアルも整備され、受け入れ体制はあるので、希望があればできる範囲で適切な支援を行う考えであるが、最終的には家族希望により医療機関へ転院するケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを設置している。急変時には医師に連絡を取り指示を受けている。応急処置、AEDの使い方は消防署の指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立会いの下で、避難訓練を実施。運営推進会議で消防職員からの災害対策、避難方法の指導、意見交換を行っている。	併設特養と合同で2～3か月に1回、独自に年2回の避難訓練を夜間想定、利用者の参加を含め、実施している。内1回は運営推進会議の日に消防署の立ち合いの下、実施し、今回は大雨想定での避難訓練であった。又、災害時における地域との協力体制は、2次避難した利用者の見守りに関し、地域住民の協力が得られる体制にある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や起床時の清拭は、羞恥心のある方には本人自身で対応して頂いている。トイレ介助の必要な方には出来る限り距離をおき羞恥心に配慮している。訪室時には必ずノックを行ない了解を得てから入室するようにしている。	法人・事業所での接遇研修等で、職員の幅広い知識の習得を図る体制もあり、入室・排泄・入浴時のプライバシーについても、職員は利用者目線で対応し、「ケアと世話」を意識して、できる事はやってもらい、尊厳に配慮出来るようになった。個人情報の保護もファイルは事務室ロッカーで保管し、慎重な取り扱いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出勤時には必ず利用者に挨拶をし、身体の様子等を聞き、話しやすい環境づくりに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居前の日々の暮らしに沿って、習慣、嗜好等を念頭に置き個別ケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装のアドバイスを行っている。整容もできる限り自分自身でしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食はパン、ご飯希望のものを食べていただいている。季節や行事に合わせた食事の提供をしている。ゆっくりと食事をしていただいている。準備、かたづけ等できる範囲で手伝っていただいている。	併設特養の厨房で調理済みの副食が運ばれ、事業所では主食・汁物等を作ったり、嫌いな食材の代替物を提供している。誕生者には豪華な弁当、肉か魚を選ぶ日等の工夫もある。食事時間も利用者のペースに合わせ、職員も利用者と共に賑やかに会食を楽しんでいる。おはぎ等の調理レクや、フードコートで外食を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎回食事、水分の摂取量の記録をしている。状態により食事形態を工夫している。水分量の少ない方には好きなものを飲んでいただいたり、食事量の少ない方には栄養補助食品を医師に相談し処方してもらい摂取していただいている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>声かけや一部介助をして、食後の口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>紙パンツの使用はできるだけせず、布パンツの使用を実施している。個人の排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を心かけている。</p>	<p>各居室には専用トイレを設け、尿意があれば即トイレ誘導を行っている。必要時のポータブルトイレ対応や夜間排泄時の転倒防止のため床センサーの導入等、環境整備も為されている。利用者が出来ることは本人に行なってもらい、又、紙パンツに比べ、経済的・機能的な改良型布パンツの導入等、自立に向けた支援も行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘がちな方にはオリゴ糖を飲んでいただいている。慢性の便秘の方には医師に相談し定期的に整腸剤等服薬していただいている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>身体状況や体調により週2～3回の入浴をしていただいております。出来る限り自分で行なって頂きゆっくりのんびりと会話、見守りを行いながら入浴していただいております。</p>	<p>夏場は週3回、それ以外は週2回の午後浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等で柔軟に対応している。入浴は半埋め込み式の檜風呂での個人浴だが、利用者の負担を考え、シャワー浴や足浴等で対応したり、移乗し易い入浴台や檜の香りを満喫しつつ、安心して浸かれる浴槽台等、環境面の工夫もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>就寝時間を決めず、眠くなるま でホールで過ごしていただいたり 、眠れない方には会話の援助を 行ない安心して眠れるよう支 援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>主治医の指示の下、服薬管理、 介助、確認を実施している。症 状の変化時服薬関係は主治医に 相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>生活歴を念頭に置き、特技や趣 味を活かした支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。</p>	<p>散歩、買い物、花火見学、お花 見、外食、映画鑑賞等に出かけ ている。帰宅願望の訴え時には 散歩、ドライブ等を実施し気分 転換を図っている。</p>	<p>日頃から利用者の希望により 近所への散歩や買い物に出か けている。又、お花見・大和ミ ュージアム見学等の外出行事 や公民館での映画鑑賞・保育 園の運動会のような地域行事、 今回初めてフェリーからの海上 花火見物等、普段は行けない ような所へ外出し、「非日常」を 楽しむこともある。更に家族と の外食も楽しみの一つである。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>本人が希望したり必要時には、 家族に購入伺いを行ない、買 い物に行き好きなものを購入 していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望や必要時には家族、知人に電話をかけたたり手紙を書いたり来た手紙を読んだりする支援をしている。携帯電話を所持して自由にやり取りされている方もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自然エネルギーを有効に取り入れたジオパワーシステムを導入し、自然に近い環境づくりをしている。ホールは天井が高く、明るくゆったりしており、開放感がある。季節ごとに飾り付けをして、季節を感じていただけるようにしている。</p>	<p>白を基調としたリビングの天井は高く、中庭を取り巻く廊下には広い開口部を設け、明るく開放的な設えとなっている。和室の談話室や檜風呂等、穏やか空間と相俟って、地熱利用24時間換気システムの導入により、心地よい温熱空間となっている。又、フロアには利用者で作った折り紙細工が華美に走らず、季節感を出している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>実施した行事の写真やパンフレットを掲示したりして、利用者様同士の話題のきっかけ作りをしている。気の合う利用者同士の居室の行き来もされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室には手づくりカレンダーや誕生日の色紙が飾ってあります。自宅で使用していた家具等を使用したり、写真、置物等をおき違和感の無い環境で過ごして頂けるようにしている。</p>	<p>居室には、ベッド・エアコン・クローゼット・洗面台が備え付けられると共に窓の内側に障子を入れた和の設えで、専用のトイレも設置されている。テレビ・箆笥等、使い慣れた物、又、木彫り細工等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様になっている。更に夜間の安全面やトイレ誘導を考え、センサーマットを設置する時もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全を一番に、利用者を尊重しながら、能力に応じた環境作りをしている。ADLの低下を防ぐ為、自身が出来たことは、見守りの下でして頂き、出来ないことは支援している。</p>		

V アウトカム項目(ひまわり) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム誠心園

作成日 平成30年2月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現在の理念の中にある普通であたりまえの重複した言葉がある。理念の見直しをする。	重複した部分を職員全体で考えパーソン センタード ケアに添った理念作成。	現在職員にアンケートをとっています。3月に行なう全体ミーティングで話し合う。	1ヶ月
2	23	パーソンセンタードケアを理解したうえでの支援。	職員全員が周知する。	私自身が根拠をもって説明を行ない、1人1人の支援方法を指導していく。	6ヶ月以上
3	26	パーソンセンタードケアを理解したうえでの支援。	パーソンセンタードケアに基づいたプラン作成を行なう。	担当制を継続して観察で得た情報を共有する為担当者会議を開く。	3ヶ月以上
4	49	外出支援、グループホーム内でのレクがマンネリ化している。	ケとハレを深化させる	利用者個人個人の選択を取り入れた外食行事。利用者様の自伝アルバムづくりを行う。	3ヶ月以上
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。